

慈眼

第21号

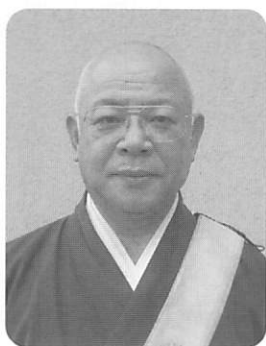
発行所
唐津市西十人町127 法蓮寺内
TEL 0955-72-2393
FAX 0955-74-4948
**日蓮宗佐賀
教化センター**
発行責任者
藤山英周

ご挨拶

― 唱えよう 広めよう お題目 ―

日蓮宗佐賀県宗務所伝道担当事務長

本経寺住職 初井恵親



昨年五月に、日蓮宗佐賀県宗務所小寺大誠所長第二期目にあたり、佐賀県宗務所の伝道担当事務長にご指名を受けました。佐賀市内東部の閑静な住宅地に在ります本経寺の住職を致しております。同じく宗務担当事務長に就任されました小城町 法撰寺御住職 峰松正法上人と共に小寺宗務所長の両腕となり、ご寺院各聖のご指導を受けながら、四年間勤めさせて頂く所存でございます。県内ご寺院の皆様方をはじめ、檀信徒の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて宗門は、去る平成十四年に立教開宗七百五十年を迎えました。日蓮大聖人は建長五年四月二十八日、安房の国千光山旭が森において昇る旭日に向かって、お題目を始唱されたことは皆様ご存じのことでしょう。このように立教開宗の年月日が特定できるのは日蓮宗だけでございます。このことは日蓮大聖人がお釈迦様の教えはこれしかないという確固たる信念の下に南無妙法蓮華經の信仰を宣言されたということを証明しております。日蓮大聖人の立教開宗のご誓願の原点に立ち帰って、私たち僧俗共に心を一にして新しい気持ちで一步を踏み出さねばなりません。

宗門は「伝える」～新たなる第一歩、次世代へのアプローチというスローガンのもと、次の世代、いわゆる子供や孫へ、また悩み苦しむ人々へ、正しい信仰を伝えていく取り組みをしております。私たちはご先祖から伝承されたお題目の宝珠を宝の持ちぐされにせず、深く信仰して子々孫々に伝えてゆくことが大事です。

「我等の頭は妙なり咽は法なり、胸は蓮なり、腹は華、足は経なり。この五尺の身 妙法蓮華經の五字なり。この大事

を説かんが為に仏は出世し給う、我等が一身の妙法五字なりと、開仏知見する時即身成仏するなり。」と『御義口伝』に示されております。感激を持って唱える唱題三昧の境地こそ、即身成仏の姿であり、お題目によって生かされているという自覚が生まれます。お題目の命綱をしつかりとにぎり、真剣に唱えるお題目は仏祖に必ず通じます。よりよく生きたい、生き甲斐のある人生を送りたいとだれしも思いますが、それを実現させる生き方はお題目の道を一筋に歩き、人としてなすべきことを使命感を持って尽くし、報恩感謝の念を持って日々信仰に励んで頂きたいと存じます。宗徒一人ひとりが柱となつて、世の中すべての人々にお題目を唱えて頂くよう信仰の種まきをしていくことが、仏恩に報じることであり、大きな功德を積む菩薩行であります。

「須く心を一にして、南無妙法蓮華經と 我も唱え、他をも勧めんのみこそ 今生人界の思い出なるべき」と日蓮大聖人はお示しになっております。皆様も、子供さん・お孫さんと一緒になって一心にお題目を唱え、菩提寺にもご家族お揃いで一お参りになることが大切だと存じます。

最後になりますが、本年十一月二十八日(日) 武雄市文化会館に於いて佐賀県護法大会が開催されます。皆様お誘い合わせ、是非ご参加頂きたいと存じます。一緒に大きな声でお題目をお唱え致しますよう!

日蓮宗佐賀県護法大会

テーマ：「伝える」～新たなる第一歩

日 時 平成16年11月28日(日)
場 所 武雄市文化会館大ホール
問い合わせ 佐賀県宗務所 塩田町学成院内 TEL 0954-66-2285



【特集】

《六老僧》

今回より六老僧をおひとりずつ説明していきます。
第一回は大成弁阿闍梨日昭上人のご生涯です。

大成弁阿闍梨日昭上人

日昭上人は字を弁また大成弁阿闍梨と言ひ、不軽院と号されました。日蓮聖人門下の本弟子の中の筆頭に挙げられ、日蓮聖人より一歳年上です。

承久三年(一二二二)、下総(千葉県)

海上郡に印東祐昭の次男としてお生まれになりました。日蓮聖人龍口法難の折牡丹餅を供養された妙一尼が母と伝えられています。日昭上人の妹の子が日朗上人で、叔父・甥の関係になります。

日昭上人は十五歳の時、地元天台宗寺院で出家され、字を成弁と称されました。後に比叡山へ登り尊海法印に就いて修行なされました。この頃、京都、奈良、比叡山と諸寺を訪ね遊学研鑽をなされていた日蓮聖人と出会われ、共に学ばれたと伝えられています。

日蓮聖人が立教開宗の後、鎌倉にて御題目布教をなされていると聞いた日昭上人は、比叡山を下り、日蓮聖人の弟子となられました。

やがて日蓮聖人に対する幕府の弾圧が

厳しくなり、龍口法難・佐渡流罪に処せられ、ほとんどの弟子・信徒が御題目信仰から退転するなか、日昭上人は鎌倉浜土の住坊で懸命に門下を支え、布教に従事されました。このころ住坊を持つ弟子



たまざわ きょうおうざんみょうほ つけ じ
「玉沢・経王山 妙法華寺」

は少なく、多くの人に法華経を説き伝える道場として大切な役割を果たされています。

さらに日蓮聖人は身延入山後の弘安三

年(一二八〇)日昭上人に非常に大きな曼荼羅を授与されています。日蓮聖人はこの曼荼羅が日昭上人の住坊に安置され人々の信仰対象となる事を予測して書かれたのでしょうか。弘安七年(一二八四)にはこの住坊を改め一寺を建立して法華寺と称しました。

また、日蓮聖人は、日昭上人を「弁阿闍梨」「弁殿」と尊称しておられた事からも、日昭上人がいかに法華経を弘める高弟として認められていたかが推察できます。

日昭上人は晩年、越後の領主風間信昭の外護を受け、徳治元年(一三〇六)相模(神奈川県)に妙法寺を建立され、翌二年には弟子の日成上人に譲り、住坊浜土の法華寺を弟子日祐上人に付属され、元亨三年(一二三三)、百三歳の長寿で入寂されました。

日昭上人の入寂後まもなく、風間信昭は領地の越後の村田に移る事によって同地に妙法寺を移し日成上人もこれに赴かれ、教線の拡張に専念されました。浜土の法華寺は、津波、兵乱などによって移転を繰り返し、文禄三年(一五九四)には伊豆の玉沢へ移りました。現在の妙法華寺がそれです。

日昭上人の法脈を継承する門流を「日昭門流」または「浜門流」と言います。

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL
木下株式会社

草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) 30-4040
FAX 30-4043
南佐賀草苑本店 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) 25-1255
FAX 25-1088

技術本位

佐賀の老舗

信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

「宝塔偈」

此経難持のお話し

前号において「此経難持（妙法蓮華經見宝塔品第十一）」の中で最も大切な「六難九易」について説明致しました。この六難九易の文を体得した日蓮大聖人は末法における法華経弘通の唱導師であることを表明され、大聖人の死身弘法・法華色説の弘教活動を支えた経文であります。日蓮大聖人は人々を救うため困難を覚悟の上でこの法華経を弘められたのです。ところで「此経難持」の唱え方について疑問をお持ちになった事はございませんか？

日蓮大聖人が伊豆へ流罪になられた時のお話です。配流される日蓮大聖人に乗せた船が出港しようとした時、弟子の一人日朗上人が役人に同行を求めました。役人は日朗上人の申し出を拒絶するだけでなく、權で上人を打ち据えたのです。痛みを砂浜でうずくまる日朗上人を残し日蓮大聖人に乗せた船は岸を遠ざかって行きます。その時日朗上人の耳に大聖人の「宝塔偈」を唱える声が聞こえてきました。日蓮大聖人の声は波に遙られ、時には詰まり、時には伸びて聞こえてきます。御自身がどうなるかもしれない特に悲痛な面持ちで見送る弟子達に「宝塔偈」を唱え励まされたのです。弟子達もまたその声に合わせて「宝塔偈」を唱えられたと言われています。この事に由来し、現

在でも「宝塔偈」を独特のリズムでお唱えするものです。

宝塔偈では、しっかりとした信念を持って法華経を持つ人がいるならば、仏天がその精進に対し喜び、その人々をお守り下さると結ばれています。

法華経の一文一句、一心に経文の意味をかみしめ、日々の仏道修行に精進致します。

「お寺へのQ&A」

『うちわ太鼓についての質問がございましたので簡単に述べてみたいと思います。』



うちわ太鼓（団扇太鼓）は日蓮宗の僧侶をはじめ、檀信徒の皆様も唱題時や寒

行行脚などの際に広く使われておりますし、最近では法華和讃でもお馴染みとなっております。

そもそも、太鼓を叩いてお題目をお唱えするという形態の起源を調べてみますと、以外に古く鎌倉時代からあることが解りました。

伝承によりますと、念仏宗の僧侶が改宗して日蓮聖人のお弟子となりました。ところが、それまで念仏を唱えるときには、いつも鉦をたたいて調子を取り、一定のリズムに乗って唱えていたのに、お題目を唱えるときには調子をとるものが無くて、どうも具合が悪い。リズムカルに唱えることが出来ない。

そこで、「お題目を一層唱えこむ為に何か良い方法はないものか」と考えあぐねたすえ、太鼓をたたいてお題目をあげてみたところ、大変具合が良いので、日蓮聖人にお許しをいただいて、この僧はいつも太鼓をたたいてお題目をあげるようになったそうです。

そこでこのお弟子に日蓮聖人は首題房日唱と名前を御付けになられましたと伝えられております。

うちわ太鼓が何時の時代から今の様な携帯に便利な団扇形になったかは定かではありませんが、江戸時代の落語の中に、「どんどん、良く鳴る法華の太鼓」なる語呂があるように、江戸時代にはうちわ太鼓をたたいてお題目をお唱えすることが決まった様です。

平成16年度・創業82年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ

光 古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 ☎840-0813 TEL(0952)23-5521
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564



手を合わせることを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町 10-12 23-4308
☎840-0824 ☎(0952)

- | | | | |
|---------|-------|--------|-------|
| ・寺院用具一式 | ・前卓 | ・錫金物 | ・宮殿機具 |
| ・登座 | ・修復 | ・須弥壇 | ・経 |
| ・仏壇 | ・人天蓋 | ・美術彫刻品 | ・仏像 |
| ・幃 | ・宗教絵画 | ・神具 | ・瑠璃 |
| ・塗物 | ・その他 | ・仏像彫刻 | |

寺院紹介 (十九)

《玉照山 光旭寺》 ぎょくしやうざん こうぎょくじ

小城郡三日月町立石三三六



職住 康英 田中
なかにち こうえい

光旭寺は三日月町の南部に位置し、遠くに天山を望む場所にあります。

【歴史】

光旭寺は応永五年（一三九八）三月創立で、開山は三日月町勝妙寺第六世日光上人、開基は壇越千葉大隅守胤継公です。北条幕府が蒙古襲来に対し防戦態勢が急がれた文永八年（一二七一）九月、千葉頼胤は幕府の命を受けて九州に下向し、所領の肥前国小城に赴き博多で警護番役に就きましたが、文永十一年十月の蒙古との戦に傷を負い、翌建治元年（一二七五）八月十三日に小城の地で没しました。頼胤を失った千葉氏は、弟に千葉の本家を継がせ、世嗣宗胤自ら肥前国小城に赴いて蒙古襲来の警護に当たる事となったのです。この宗胤の子が胤貞で、中山法華経寺を中心とする日蓮宗の外護者と



光旭寺全景

して有名です。

宗胤の子胤貞は、法華経寺の第二代貫首日高上人に深く帰依しました。日高上人とは、日蓮聖人面授の弟子で、師の日蓮聖人が身延に隠栖された時、側近に待って修学・修行にいそしんだ。いわばその修行時代を日蓮聖人のかたわらで送った僧で、後に宗門の中心として教団を統率し、教団における最初の基礎造りという重大な役割を果たした高僧です。

胤貞は日高上人に法華経寺の俗別頭（寺院の運営面における責任者で、貫首と並び称される立場にある俗人のこと）として迎えられ、貫首と並ぶ権限をもつと共に、その後楯によって中山法華経寺を中心に教団は急速に発展していきます。千葉胤貞は日蓮宗に多大な影響と貢献を残しました。また、小城松尾山光勝寺の開基壇越でもあります。

日高上人が入滅した後、中山法華経寺の教団からは日蓮聖人面授の弟子が消えてしまうことになる。このような重要な局面の転換にあたって胤貞の養子日祐上人が、第三代目の貫首職となりました。胤貞の後を継いだのは胤継で、父に劣らず日蓮宗の信仰に熱心で、貫首の日祐上人に対して田畑を寄進したのを始め、多方面にわたってその活躍を支えた人物で、光旭寺の開基壇越です。

現在の光旭寺は立教開宗七五〇慶讃事業として、本堂、鬼子母神堂の瓦替え、水行堂の改築工事を成し今の姿となっています。

【寺宝】

中山法華経寺代三世、松尾山光勝寺開山

浄行院日祐上人曼荼羅本尊一幅を蔵しています。



光旭寺御宝前



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を

梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)
7番出入口・博多座裏
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

フリーダイヤル 0120-39-0456

TEL 092-806-7499

総合葬祭

葬祭会館

城 かく 閣
黄 うん 雲
有限会社 光
こう 光

小城郡三日月町大字久米2134-1

代表 (0952)-73-3938

TEL (0952)-73-2020